

目的地まできちんと行くのと、トラブルを避ける代金と考えるのなら
お徳かもしれません。他の国の口座開設ツアーなんて数万取りますからね。

それと証券会社訪問は事前にアポイントを取るのと、
午後2時くらいまで訪問した方が良いです。
(銀行が3時で閉まってしまうので。)

さてそれでは第17号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

(こちらのメールマガジンは転送可となっています。
御友人や御知り合いでタイに関心ある方にはどんどんお伝え下さい。)

□□ No1 タイ株初心者編です ■■

前回に続いてタイの証券口座のお話をしようと思っております。

現在アジア各国で株式市場が上昇していて、日本国内の証券会社でも
活発化しています。

夏のボーナスに向けて海外投資しよう！

と言うのが増えているようですね。

良く注意して欲しいなと感じたのはやはり手数料の部分です。

手数料が何%と言うのはそれ以上のリターンがないと

儲かっていないことになるからです。

あとで、気づいてみてすごくかかっていたという事のないように。

特にタイ株ではある証券会社で売買のたびに為替を通していて
悪いレートでの決済ですので、買うたび、売るたびにお金が減っていきます・・・。

これを日本国内のサービス料と取る人もいるし、
安全料金だから仕方ないと取るの人もいるのですが、
知らないまま投資される方もいるので一応確認されてから投資を決定して下さい。

現在タイ株を扱っている証券会社は

日本では ユナイテッドワールド証券 アイザワ証券

タイ国内では ユナイテッド証券 SEAMICO 証券

香港では フィリップ証券

などになります。他にもいろいろと、英語のできる証券会社もありますが、
初心者編と言うことですので、これだけにしておきます。

海外投資には

- 1 投資する金額はいくらか (リスクが取れる範囲で)
- 2 どこの証券会社へするか (日本国内か海外か)
- 3 その手数料はいくらかシミュレーション
- 4 戻すときはいくらか (または戻さないで使い切るか)

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

5 実際どれくらいの期間で投資するのか (短期か中長期か) などなど事前に計画を立ててから実行されると良いかと思われま

管理人のコメント :

現在再び書籍を執筆中です。タイの株式開設マニュアルになります。この書籍だけでさまざまな証券会社の開き方を解説しています。

そのため、御返事に時間がかかっているケースもありますが、基本は全員お問い合わせいただいた方には必ず返信しますので、もしお返事が来ない場合は再度御連絡ください。

□□ No 2 タイ株上級者編です ■■
過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 017 DTAC です。○○
タイでの携帯電話第2位のキャリア会社です。

トータル・アクセス・コミュニケーション (DTAC)は携帯電話サービス2位の企業です。D-TACの愛称でタイでは知られており、Dii (タイ語で良いと言う意味)を頭文字に付けることで良いサービスを提供することをビジョンにしているそうです。

TAC社は1989年にタイの有力財閥、ベンジャロンクン家が設立した会社です。1995年にはシンガポール証券取引所であるSGXに上場を果たしました。2005年10月はノルウェーの通信企業であるテレノール社が出資比率を引き上げて経営掌握することになりました。DTACは外資の比率が上がったことでテレノール社主導の経営で進んでいます。

携帯電話契約数第2位のトータル・アクセス・コミュニケーション (銘柄コードDTAC)の2006年度の決算は売上高が前年比12.4%増の484億7400万バーツ、純利益が同7%増の49億3800万バーツ。2006年末の総加入者数は1220万件で、加入者シェア率ではおよそ30%となっています。2006年は新規加入が好調に伸び、シェア50%の携帯キャリア最大手アドバンス・インフォ・サービス(AIS)を猛追している状況です。タイ国内の携帯電話サービスの加入者数はAISが1800万件、DTACが1200万件、TRUEMOVE (トゥルー・ムーヴ:親会社はTRUE)が700万件となっています。

AIS(ADVANC)とTRUE (TRUE) は過去のメルマガでご紹介しました。

□□ No 3 タイ国内ニュース編です ■■

7月10日(火曜日)のタイ株式市場は続伸しました。
タイ証券取引所SET指数は前日比で1.69%高の
858.45ポイントで終わりました。

エネルギー関連、銀行関連などの大型株が軒並み買われた。
2006年末の679.84ポイントからおおよそ26%の上昇となっています。

SET指数は、5月30日に
タイ憲法裁判所が前与党・タイ愛国党に選挙違反で解散を命じる判決を下し、
野党であった民主党が無罪となったことが今後の政治の安定化へ向かうとされ、
6月1日に753.93ポイントまで上昇しておよそ1年ぶりの高値を付けました。
その後も、海外からの投資資金が流入し続け、
7月3日には10年ぶり高値の813.52ポイントになりました。

うむむ、今号から読んでいただいている方には
なんなんですが、調子良いですタイ株式市場。
長くから取引されている方には「とうとう来たか！」
と言う思いが強いのではないのでしょうか。

800ポイントと言う壁に毎回はね返されていたSET指数ですが、
今回あっさりと突破しました。

政治リスクがあったから、タイ株は伸びてなかったんだよという方の意見も
あるのですが、そもそもクーデター前から、2004年までさかのぼってタイ株は
周りのASEAN諸国に比べて割安な状態が続いていました。

さまざまな条件と要素が絡んで
タイ株は企業が増収増益でも株価が冴えなかったのですが、
伸びて欲しい企業がまだまだあります。
とりあえず、年末の総選挙までじっくり構えます。

□□ No 4 追伸です ■■

タイは現在雨が多く降っております。
バンコクではなんだか日本のように長く降る日が増えています。

日本でも梅雨と大雨で被害が出ているようです。
大分に住む祖母も田舎に住んでいますので、
土砂崩れとか少し心配です。。
九州地方はかなり強い雨が叩きつけるように降りますので。

それとは別の件ですが日本で

